中部様式

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価 及び地域公共交通計画の評価結果 概要(全体)

一宮市地域公共交通会議

平成19年2月9日設置

平成30年2月 第2次一宮市公共交通計画策定

(計画期間:平成30年4月~令和5年3月)

令和2年7月13日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和4年1月21日 令和3年度評価結果送付

直近の二次評価結果

事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)

今後の対応方針

〇評価できる取組

- 1. バス路線系統番号表示
- 2. 一宮おでかけバス手形、 コミュニティバスの一日乗 車券、回数券の設定・販売 を行ったこと
- 3. 地方創生臨時交付金を活用した公共交通への支援策

〇期待する取組

- 1. 地方創生臨時交付金の活用など、新型コロナウイルスの影響を受けている公共交通への支援策に期待
- 2. 一宮おでかけバス手形の 発行や継続的な利用促進を 講じることを期待
- 3. i バスミニの運行を含め、地域の声をよく聞きながら、交通が不便な地域の解消に向けた取組を期待

- ・公共交通マップや時刻表を、 ダイヤ改正に合わせて内容 を更新し、チラシ類全てに バス路線系統番号を記載し、 作成・配布
- ・一宮おでかけバス手形や 回数券等を継続して販売
- ・令和2年12月~令和3年2月、 名鉄バスが販売する高齢者 向け定期券の購入費用の 一部を市が負担し、高齢者 の外出を支援
- ・地域の声を聞き、i-バス ミニの5箇所の停留所に おける接続先を変更

- ・バス路線系統番号を活用し、 より見やすく分かりやすい サインパネルの設置等案内 表示の整備を図る
- チラシ類にスムーズな検索のためQRコードを掲載
- ・企画乗車券等、継続的な販売を目指す
- ・令和3年10月〜令和4年2月に、 高齢者向け定期券の購入費 用の一部補助を行う
- ・コロナ対策として、地域で開催される講座や教室等に出向き、バス全般(公共交通利用・一日乗車券・ICカード・バスロケなど)について、PRを展開する・アフターフロナを見越し
- ・アフターコロナを見越し、 観光部門と連携した取り組 みや利用促進を図る

(1) 地域の特性

- ・鉄道、路線バスが一宮駅を中心に放射状に運行
- ・路線バスの一部は市を跨いで、広域的に運行

(2)地域公共交通のネットワークの形成について

- ・平成24年3月に一宮市公共交通計画(地域公共交通網形成計画)を策定 ※改訂を行い現在に至る
- ・路線バスは、一宮駅から各地域の拠点を結ぶ幹線的バスと、地域内の最寄りの鉄道駅や幹線 的バスと接続する支線的バスに分類
- ・幹線・支線が結節することでネットワークとして有効に機能するよう整備
- ・一部に残る交通不便地域を解消するため、i バスミニ(一般タクシー車両による予約制の フィーダー輸送)を支線的バスと位置づけ、平成30年4月より本格運行

(3) 第2次一宮市公共交通計画の基本方針

・都市活動を支える体系的な公共交通ネットワークを整備する

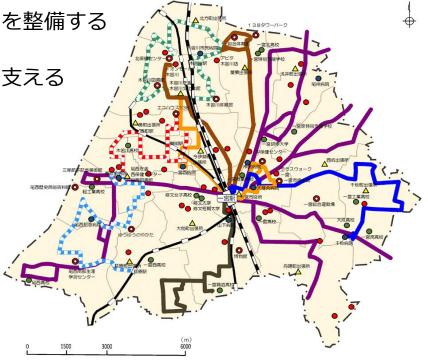
・利用しやすい公共交通環境を整備する

・地域、交通事業者、一宮市が連携して公共交通を支える

(4)計画期間 平成30年度~令和4年度

				凡 例		
鉄道		JR			主な公共施設	0
		名鉄			土水五六加。	
幹線的バス	幹線	1	路線バス		市庁舎・出張所	
	準幹線	1	路線バス		Warm - P full	
		i ーバス	千秋町コース		医療機関(総合病	700)
			大和町・萩原町 コース		医棕线属 (和6日/4)57	(a)
	まちなか幹線	i ーバス	一宮コース		大型小売店、スーパーマーケット	
支線的 バス	地域生活バス	i ーバス	尾西北コース		八宝がい店、スーパーマ	7-991
			尾西南コース	•••••	高校•大学	
			木曽川・北方 コース			
				幹線補助路線		フィーダ―補助路線

※一宮・イオン木曽川線のみ



(Do)

- 1. これまでに行った主な取り組み
 - ① 市内公共交通の機能分類と運行水準を設定し、路線の見直しを実施 【実施例】

一宮・イオン木曽川線の新規運行(平成25年4月運行開始) ※幹線補助路線 、iーバスミニ(予約制乗合タクシー)の運行を実施(平成30年4月本格運行開始)

- ② バスの運行状況の情報(バスロケーションシステム)の提供(平成25年10月導入)
- ③ バスの運行時刻やルート等の情報をオープンデータ化(GTFS)し、グーグルマップに掲載(今和元年5月実施)
- ④ 車両買い替えに合わせたノンステップバスの導入





- 2. 評価期間中に行った取り組み
- □ 継続して行っている取り組み
 - これまでに行った取り組み①~③を継続
 - ⑤ 一宮おでかけバス手形、コミュニティバスー日乗車券、回数券の販売
 - ⑥ 市内公共交通を網羅したバスマップの作成・配布
- □ 企画して行った取り組み
 - ⑦ 「一宮おでかけバス手形」を利用してめぐる小旅行企画、 美濃路みちおこしプロジェクト「起路線バスの旅」を開催 (令和2年10月の約一か月間)
 - ◎ 名鉄バスが発売する高齢者向け定期券の購入費用の一部を 負担し、路線バスの確保維持を図る(含和2年12月~令和3年2月)
 - ⑨ バス車内の消毒、定期的な換気の実施、利用者にはマスク 着用等の周知を行う等、新型コロナウイルス感染症の拡大 防止対策を実施している。









■ 計画の評価・検証

設定した目標の達成状況から、目標に関連する施策に基づく事業について、一宮市地域公共交通会議において評価・検証を 行い、改善策を検討・実施します。

評価者	交通事業者、市の評価をもとに、一宮市地域公共交通会議(令和4年1月7日)において、評価、検証、改善策の検討
目標値	市民意識や利用者数などを評価指標として定め、各年度の目標値(下表)を設定
評価方法	第2次計画が満了する令和4年(2022)年度を最終年度とし、毎年の評価・検証とそれに基づく改善策の検討・ 実施を繰り返すとともに、次計画へ反映

【評価指標とその結果】

	指標	目標値	実績値	考察				
	市内のバスや鉄道などの公共交通網が充実 していると思う人の割合(%)	36.6	38.8	一宮市総合計画の進捗具合を調査するため市民3,000人を対象に実施した「市民の体感指標アンケート」で「はい」と答えた人の割合。市内公共交通の利便性に関する周知が図られたものと思われる。				
(2	市内バスの年間利用者数(千人)	4,885	3,505	全路線において新型コロナウイルスの影響により利用者数は減少したが、通院や買い物等生活に必要な利用に 維持されている。				
	幹線(千人)	4,432	3,184	通勤方法の変更(自家用車・自転車)やテレワークの増加により減少していると推測される。				
	準幹線・まちなか幹線(千人)	380	265	通勤方法の変更(自家用車・自転車)やテレワークの増加により減少していると推測されるが、外出の再開により、大型ショッピングセンターや鉄道駅付近の停留所は、回復傾向が早い。				
	うち、幹線補助路線	155	114	利用者数は減少したが、外出の再開により大型ショッピングセンターのある停留所は、回復傾向が早い。				
	うち、フィーダー補助路線	49	31	駅周辺地域における利用は減少したが、郊外から鉄道駅の利用は維持されている。				
	地域生活バス(千人)	73	55	利用者数は減少したが、乗り換えのできる利便性の高い停留所は、回復傾向が早い。				
	うち、幹線補助路線	54	41	駅周辺地域における利用は減少したが、郊外から鉄道駅の利用は維持されている。				
	うち、フィーダー補助路線	19	14	利用者数は35%減少したが、大型スーパーや乗り換えのできる停留所は、回復傾向が早い。				
(3	交通不便地域の人口割合(%)	1.0	0.7	小規模な交通不便地域の移動に対応するため、 i ーバスミニを運行し縮小を図ったことにより、目標を達成				
(4)	運転免許証を返納した年間人数(人)	949	1,268	一宮市高齢者運転免許証自主返納支援事業の支援を受けた人数。免許証返納後に公共交通を利用する方が増すると思われる。				
(5	一日券、回数券などの販売枚数(枚)	22,500	12,388	日券・回数券の販売枚数は大幅に減少、新型コロナウイルスの影響による外出の自粛が露呈した形となっているが、第5波の影響が小さくなった令和3年秋頃より、販売数が回復傾向にある。				

■ i -バスにおける考察

コース名	補助	指標 分類	H30.10 ∼R1.9	R1.10 ~R2.9	R2.10 ~R3.9	考察
尾西北	フィーだ	地域生活バス	21,147人	16,176人	15,898人	コロナ前から利用者数は減少傾向にあり、コロナの影響により35%減少、現在15%回復傾向にある。大型スーパーや乗り換えのできる停留所においては回復が早い。
大和町・萩原町	- フィ ー ダ—	準幹線	47,666人	36,192人	32,696人	コロナ前と比較すると35%利用は落ち込んだが10%回復してきている。 団地等集合住宅のある停留所は早かったが7%減が続いている。
一宮	幹線	まちなか 幹線	97,023人	70,871人	63,597人	コロナの影響から10%回復傾向にあるが、30%弱減で下げ止まりが続き、大型駐車場を備える施設付近の停留所の回復は鈍化傾向にある。
尾西南		地域生活	36,984人	32,306人	30,875人	コロナ前は10%増加傾向にあったが、コロナの影響により22%減少、現在は5%回復傾向にある。鉄道駅や団地等集合住宅のある停留所の回復が早い。
木曽川・北方		バス	21,059人	15,556人	13,242人	コロナの影響からコース全体で10%強回復しているが、30%減で下げ止まっている。大型ショッピングセンター付近の停留所は回復が早い。
千秋町	なし	準幹線	44,318人	33,706人	32,907人	コロナの影響からコース全体で10%強回復しているが、総合病院の停留所は40%以上減で下げ止まったままである。

■全体的な結果に対する考察

市内路線バスを含む全コースにおいて、一年間新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、利用者数は影響を受ける前の3割減のまま、下げ止まりが続いた。利用者の傾向は、生活必需品の購入や通院等、公共交通機関を必ず利用しなければならない固定利用者と推測される。緊急事態宣言等の解除後は、回復が早い傾向にある。

■今後の方針

交通事業者における徹底したコロナ対策の周知をし、利用者にはマスク着用やうがい・手洗い等の実施を周知し、安心安全な運行に努めていることを強調し、新たな生活様式に合わせた公共交通サービスを検討していく。

自己評価から得られた課題

対 策

新型コロナウイルスの影響により下げ止まりが続いている利用者数を回復させるには、地域・事業者・ 行政が感染症対策の徹底をし、利用者には感染予防 策の理解・協力を求め、公共交通機関は安心・安全 であることを周知することが必要。 事業者の徹底した感染症対策、利用者には感染予防 のための具体的な注意を、バス車内、市ウェブサイ トや地域広報誌において周知を行う。

一日乗車券(コミュニティバス専用一日乗車券、一宮おでかけバス手形)や I Cカード、バスロケーションシステムの便利な機能や、お得な情報の周知を図り、利用促進を行うことが必要。

特に、令和2年4月に値上げをし、販売枚数が大幅に 減少した一宮おでかけバス手形については、継続販 売できるよう対策が必要。 対面による利用促進事業を再開する。特に市内在住の75歳以上の高齢者に、コロナ対策として福祉部門担当課よりICカードを配布したため、地域の公民館等で行われる会合等に出向き、お得な利用方法(企画乗車券や乗り継ぎ等)を周知していく。なお、ICカードが利用できない路線への導入は、費用面で早期導入は困難であるが、引き続き情報収集を行い、可能性を探る。

小規模な交通不便地域の移動に対応する i -バスミニの運行を充実させる。また、高齢化が進み運転免許証返納者が増加しているため、交通弱者への対策が必要。

i - バスミニ停留所の増設の検討、利用の少ない停留所の地域住民への周知、停留所の設置場所の見直し等、利便性の向上を図り、交通不便地域を縮小する。また、高齢者への対応を福祉部門と連携を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月14日

協議会名: 一宮市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況		④事業実施の適切性		⑤目標·効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。) を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】		【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A · B · C 評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、 目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載	
スイトトラベル株式会社 【申請番号1】	iーバス大和町・萩原町コース ルート①	・一宮市公共交通マップ等配布物全でにバス路線系統番号を記載して路線を分かりやすく作成となる転入者へ配布をした。・公共施設のイベントを積極的に車内に掲示をした。・市内バス路線の乗り継ぎが割安となる一宮おでかけバス手形や回数券等の販売を、市ウェブサイトや広報誌等により周知をした。		補助対象期間の開始日から、運 休や大幅な遅延もなく、所定の 事業計画どおりの運行が実施さ れた。		【利用者数】 (目標)令和2年度比+0.5% (実績)令和2年度比-9.7% (36,192人⇒32,696人) 目標を達成できていない。 【要因】 コロナの影響により利用が減少したが、外出が再開されるとともに回復傾向にあり、特に大型スーパーや団地等集合住宅付近にある停留所は、令和2年度より10%増加している。	引き続き、「一宮市公共交通計画」等に基づく、一宮市公共交通マップの作成・配布、一日乗車券の発売を行う。また、コロナ対策を図りながら、地域での意見交換会、バスの乗り方教室、利用者アンケートの実施、地域の集まりでのバスのPR、住民との対話されていたのがスのPR、は民との対話されていた対面による活動を再開し、公共交通の利用促進につながる取り組みを実施していく。	
スイトトラベル株式会社 【申請番号2】	iーバス大和町・萩原町コース ルート②							
スイトトラベル株式会社 【申請番号3】	iーバス大和町・萩原町コース ルート③							
名鉄バス株式会社	iーバス尾西北コース	・一宮市公共交通マップ等配布 物全でにバス路線系統 番号を 記載して路線を分かりやすく作成し、市内各所やはじめて市民 となる転入者へ配布をした。 ・公共施設のイベントを積極的 に車内に掲示をした。 ・市内バス路線の乗り継ぎが割 安となる一会おでかけバス手形 や回数券等の販売を、市ウェブ サイトや広報誌等により周知を した。	A	補助対象期間の開始日から、運 休や大幅な遅延もなく、所定の 事業計画どおりの運行が実施さ れた。	В	【利用者数】 (目標)令和2年度比+0.5% (実績)令和2年度比-1.8% (16,176人⇒15,898人) 目標を達成できていない。 【要因】 コロナの影響により利用が減少したが、利用者数はR2年度からほぼ横ばい。大型スーパーや乗り換えのできる停留所は、令和2年度より15%増加している。	引き続き、「一宮市公共交通計画」等に基づく、一宮市公共交通マップの作成・配布、一日乗車券の発売を行う。また、コロナ対策を図りながら、地域であ見交換会、バスの乗り方教室、利用者アンケートの実施、地域の集まりでのバスのPR、住民との対話を重視する等、コロナの影響で自粛されていた対面による活動を再開し、公共交通の利用促進につながる取り組みを実施していく。	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月14日

協議会名:	一宮市地域公共交通会議
評価対象事業名:	生活交通確保維持改善計画に基づく事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	本市の目指す都市将来像である「木曽の清流に映え、心ふれあう躍動都市 一宮」の実現に向け、快適な暮らしを支える利便性の高い公共交通ネットワークを構築するため、過度に車に依存せず、誰もが安心して快適に暮らすことができるまちをめざし、地域、交通事業者、市が連携・協働し、利便性の高い持続可能な公共交通ネットワークを整備します。 公共交通は、通院や買物、通勤・通学など、日常生活を送るためには欠かせない移動手段です。今後もさらに進む少子高齢化・人口減少社会に向け、まちづくり施策(コンパクトシティナネットワーク)との連携を図りながら、市民の皆さんが安心して日常生活を送ることができるよう、また、来街者の皆さんにも使いやすい移動手段となるよう公共交通の整備を図ります。 ※「第2次一宮市公共交通計画(平成30年2月策定)」より抜粋

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

一宮市地域公共交通計画の評価等結果(令和2年10月~3年9月)

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
市内のバスや鉄道などの公共 交通網が充実していると思う 人の割合: 35.4%(H29年度)→37.4%(R4年 度)	・市ウェブサイトや広報誌等による利用の周知、ダイヤ改正に合わせた公共交通マップや時刻表の作成・配布	に実施した「市民	目標値は36.6%、結果38.8%(R3.6時点) ○達成 通動方法の変更やテレワークの増加により鉄道駅の利用も減 少傾向にあると推測されるが、鉄道利便性の高い一宮駅を中 心とした公共交通ネットワークにより、充実度が保持できて いると考えられる。		
市内バスの年間利用者数: 4,866千人(H29年度)→4,900千 人(R4年度)	・iーバス情報のGTFS化、公共施設のイベントの積極的な車内掲示、市ウェブサイトや広報等による利用の周知・名鉄バスが発売する高齢者向け定期券の購入費用を一部負担		目標値は4,885千人、結果3,884千人(R3.9時点) ▲未達成コロナの影響により利用が大きく減少したが、外出が再開されるとともに回復傾向にあり、特に大型ショッピングセンター付近停留所の回復が早い。	・交通事業者における徹底したコロナ対策により、 安心安全な運行に努めていることを周知する。 ・市内バス路線を活用したおでかけ方法を紹介する マップを作成・配布をし、利用促進を図る。	R4年度「第3次一宮 市公共交通計画」
交通不便地域の人口割合: 8.8%(H29年度)→0%(R4年度)	・予約制乗合タクシーiーバスミニを運行して最寄りの停留所へ繋 げ、交通不便地域の解消を図る	平成27年国勢調査 人口等基本集計よ り	目標値は1.0%、結果0.7%(R3.12時点) ○達成 最新のR2国勢調査による最新の値ではないが、最寄りの停留 所へ繋げる継続的な取り組みにより、交通不便地域が減少し ている。	・最終目標値を達成できるよう運行状況等を分析し、地域住民の要望等を関き、設置場所の見直しや増設を検討する。 ・高齢化の加速によるラストワンマイルを見据え、交通不便地域の範囲の見直しを次計画で検討する。	(R5年度~) 策定
一日券、回数券などの販売枚 数: 21,200枚(H29年度)→23,800枚 (R4年度)	・広報誌等の配布に合わせ、市内 全域の町内会回覧により周知 ・企画乗車券を活用しバス路線で 巡る案内を市ウェブサイトに掲載	令和3年度利用統計	目標値は22,500枚、結果12,388枚(R3.9時点) ▲未達成 外出の自粛や公共交通機関の利用を控える傾向が影響してい るが、「一宮おでかけバス手形」においてR2.4に値上げした ことにより、受益者が減少したことも要因と推測される。	・アフターコロナを見越し、観光部門との連携を図り、バスを利用した市内巡りの企画・宣伝等による 利用促進を継続し、対面によるPR活動を再開する。 ・販売価格の維持やサービス対象範囲の見直しを検 討し、販売枚数の増加を図る。	

(記載に当たっての留意事項)

- ・ 本様式中、表題の「(○年○月~○年○月)」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「一」と記載して下さい。
- 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果(議事録等)等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。